

平成23年度第1回埼玉県廃棄物処理施設専門委員会 議事要旨

- 1 日 時 平成23年7月15日（金） 14:00～16:00
- 2 場 所 埼玉会館7B会議室（7階）
- 3 出席委員 7名
池口孝委員長、今泉繁良委員、岩本一星委員、小田匡寛委員、
立本英機委員、藤吉秀昭委員、山下充康委員
（※寺嶋均委員は欠席）
- 4 委員長の選出 委員の互選により、池口孝委員が委員長に選出された。
- 5 議事要旨 事務局から資料の説明後、次のとおり質疑応答が行われた。

○漏水検知システムと修復方法について

- （委員）漏水検知システムと修復作業の説明で、遮水シートに破損があった場合はボーリングで修復するとあったが、ボーリングの径が10cmの場合、5～10cmの位置の精度がないと修復ができない。漏水検知システムの位置の精度はどの程度を想定しているのか。
- （委員）漏水検知システムと自己修復シートの関係など、漏水に対するシステムはどういった関係なのか。また、もし穴があいたら、漏水が検知された場合の対応は具体的にどうするのか。
- （事務局）技術上の精度としては様々あるが、システムの数値については決定していない。修復作業の対応とシステム導入に係る費用の兼ね合いで決定する。
自己修復シートは小さな穴がもれにくくなるもので、完全に穴を塞ぐものでなく、大きい穴などは修復できない。そのために漏水検知システムを導入する。
システムの仕様については、費用との兼ね合いで決定していない。第2回までに提示したい。
- （委員）漏水検知システムは電気システムや物理的なシステム等があり、システムにより補修方法が変わる。補修方法はボーリングと決めているのにどんなシステムを導入するか決めていないのはおかしい。
- （委員長）申請書であるのでこれから検討するというわけにはいかないのでは。
- （事務局）申請者と詰めて、2回目に回答できるようにする。
- （委員）地下水のモニタリングで異常値が検出された場合に漏水検知システムで漏

水箇所を検出すると説明あったが、システムは常に電源がはいっているのか。
(事務局) 漏水検知システムは常に稼働している

○埋立覆土の検査について

(委員) 資料3で埋立覆土の検査とあるが、場内から掘削した土を仮置きしている間にpHが低くなる事例もあるが、これを想定した検査か。

(委員) 埋立する廃棄物の検査ではないか。

(事務局) 回答の主旨は埋立時の廃棄物の検査である。覆土する土の検査は実施していない。

(委員) 覆土の検査はいままでやってきた中で必要ないという判断か。

(事務局) 今までトラブルもないので、必要性はない。

埋立覆土を放置したら変質して浸出水に影響する事例があるとのことだが、他の処分場で事例があれば、維持管理の参考にしたいと考えているので、教えていただきたい。

○沢部に堆積した軟弱地盤について

(委員) 軟弱地盤の対応で、沢に堆積したものは残土を搬出するとあるが、どれくらいの量を想定しているか。

(事務局) 沢に堆積した土量は詳細な数値は出していないが、概ね沢の面積の層厚2.5倍程度である。

(委員) 沢が広がったため土砂が大量に搬出されると思い確認した。たい積土砂は有効利用できればよい。沢部は地盤改良をすることのことだが、改良に伴い汚泥が発生するのか。

(事務局) たい積した土砂は基本的には場内で使用する。

(委員) 下流側えん堤下部の安定処理はセメントもしくは石灰による改良だと思うが、軟弱層に有機物が多いと強度が出ないが、有機物の含有量はどの程度なのか。

(委員) 安定処理はどういった方法で行うのか。

(事務局) セメントによる安定処理を計画しており、必要に応じて他の土を混ぜて強度を出す。

(委員) 土粒子密度をみると一般的な値なので有機物を多く含んでいるとは思えない。

○周辺の状況について

(委員) 宅地は南側に一件あるが、これから埋立地周辺の宅地の増加はあるか。搬入車両による騒音、振動の苦情が懸念される。

(事務局) 廃棄物の搬入路は現在のものをそのまま使う。南側から搬入車輛が入ることはない。当該地は非線引き区域であり、周辺は農地が多い。

防災調節池の奥に埋立地が位置するため、南側の家は埋立地の搬入路から離れるので、影響は出ない。

○強風時の対応について

(委員) 強風時は埋立を停止するという話であるが、覆土を停止したことでポリ袋等が飛んだという事例があるか。

(事務局) 強風時の対応は、覆土をやめるのではなく、廃棄物の受入れ、埋立を止める。また、大きな飛びやすいものは受け入れないので、受入れ時に飛散を防止している。

○防災訓練について

(委員) 防災訓練は個別には実施していると思うが、事業地内の会社等と一緒に行うなど全体で総合的な防災訓練をしている事例はあるか。

(事務局) 防災訓練は、地元消防署に協力をいただき、すべての社、地域住民が参加し防災訓練を全体で実施している。

○浸出水排水管のスケール発生について

(委員) 今回の埋立地は今までと同様の廃棄物を受け入れるとのことだが、今までの埋立地において浸出水の配管にスケールが発生し、閉塞があったことなどあるか。

(事務局) 受け入れる廃棄物の種類から基本的にスケールが発生しやすい成分が多く出ることはないと想定される。スケールが発生しやすいければ水処理施設の回転円板にも多く付着するが、現実には出ていない。しかし、スケールを予防するという観点で浸出水の配管についてこのような記載となっている。

(委員) かつて最終処分場で問題になったスケールの主な原因は飛灰だったが、今回は受け入れないので、気にする必要はないといえる。

○悪臭の発生について

(委員) 悪臭が発生した場合の対応は消臭剤をまくとあるが、過去に事例があるか。

(事務局) 過去の事例はない。

○のり面の覆土について

(委員) 遮水工の保護としてのり面に50cmの覆土をおこなうとあるが、降雨等によりすべらないのか。

(事務局) のり面の覆土は全面でなく、埋立に併せて必要な分だけ覆土するため、問題ない。

○自己修復シートの材質について

(委員) 自己修復シートは大きく分けるとCGL系と高分子系とあるが、どうして高分子系を採用したのか。

(事務局) 既存の3号埋立地で高分子系を使用している実績がある。

○受け入れる廃棄物(汚泥)の含水率について

(委員) 受け入れる廃棄物で、汚泥の含水率が85%とあるが、どうして含水率の非常に高い汚泥を受け入れるのか。

(事務局) 汚泥の含水率については、地元との協定により決めた上限である。汚泥受け入れ実績はない。

(委員) 埋立管理の面で、安定性を考えると高い含水率のものは受け入れて欲しくない。脱水する技術があるのにどうしてこのような数値にしているのか。搬入されたとき困るのでないか。

(委員長) 当埋立地は住民との協定で定めた数値を基準とすることを前提としている。

(事務局) 今まで支障がなかったので、このような数値のままとなっている。実際には85%の含水率のものは受け入れていない。今まで数値を重要視していなかった。

(委員) 公の施設でこの数値を出すと民間も真似をするのではないか。本来技術に応じて基準を下げて欲しい。行政がそういった姿勢を見せると廃棄物行政も良い方向に前進するのでないか。

(事務局) 今回の意見は重く受け止めたい。数値が直せるかどうかは検討する。

○地下水集排水管について

- (委員) 地下水の流向と地下水集配水管勾配の向きが違うが、地下水の向きに反した勾配で水は流れるのか。
- (事務局) 地下水は逆に流れているが、掘削面に併せて勾配を取るので地表面から浸出した水进行处理する。
- (委員) 底面の穴があいていなければそのとおりに流れるが、有孔管であるので、地下水の流れによるのでないか
- (事務局) 通常の流れは逆であるが、降雨時の上昇した水は排水される。
- (委員) 集水管の水頭を下げればよい。水の行き場を作ってやればいいので、下に流れる。
- (委員) 全水頭は変わらない。常時と降雨時で地下水の流れが異なっていれば話は違うが。
- (委員) 自然地下水の流向は深部であり、表層の流れは地形にそって流れる。よって、流向が矛盾しても問題ないと考えられる。
- (事務局) 地下水位集排水管が流れる場所の地下水の向きがどうなっているか確認し、次回に説明する。

○放射性廃棄物の対応について

- (委員) 焼却灰に放射性物質が入ることが想定されるが、この点について対応は考えているか。
- (事務局) 下水道汚泥の飛灰に特に放射性物質が多く含まれていると聞いているが、当センターでは下水道汚泥は受け入れていない。なお、焼却灰についてはそれほど問題ないと考えているが、地元住民も関心が高いと聞いているので、今後対応は考えていきたい。
- 県として放射線量の基準を決めることはできないと考えているので、国の基準を参考に地元で納得してもらおうという対応を考えている。

○えん堤の安定計算について

- (委員) 近年、ゲリラ豪雨等の降雨が変わっているため、降雨時の安定性の検討は重要と考えている。南側のえん堤には前面に防災調節池があり、えん堤が滑った場合防災調節池にながれ込むので、生活環境にも大きな影響を与えることが想定される。そのため、斜面安定に地下水位を考慮すべきと考えている。しかし、えん堤の計算は単位体積重量を飽和としているが、地下水位を考慮していないようだが、問題はないのか。

(委員 長) えん堤の計算はそれでよいのか。検討する必要がある。

(事務局) 計算の条件等を確認して再検討し、次回に説明する。

○総括

(委員 長) 次回は8月23日であるが、作業の進展により回答が間に合わなければ次回の日程を組みかえるということで良いか。

(事務局) 了解した。

(委員 長) 他に気がついた点は事務局にメール等で連絡して欲しい。今回の宿題は次のとおり。

- ・南側えん堤の安定計算について、地下水をどのように考慮しているのか。
- ・漏水検知システムの精度と、遮水シートの修復の仕方について
- ・焼却灰に含まれる放射性物質についての県の対応
- ・地下水集排水管の地下水の流向について

次回までにこの点について明らかにしてほしい。